

主な記事

- ★ Patent Noise Filter とは? 2面
- ★ ブックステーション 2・3面
- ★ 御食国から物申す～連載 第10回～ 3面
- ★ ○○に行ってきた 4面

発明

～はつめい
かわらばん～

KA

WA

RA

版

発明コラム どうなる? IoT・AI時代の特許

早原特許技術事務所
辰巳 富彦

最近、IoT・AI特許セミナーのご依頼を多くいただき、従来わが国では「IT特許は使えない」との意見もあったが、中国、米国やインド等によるAI、5G、ブロックチェーンの特許取得が突出してきた現在、さすがに危機感が生じ潮目が変わってきた。

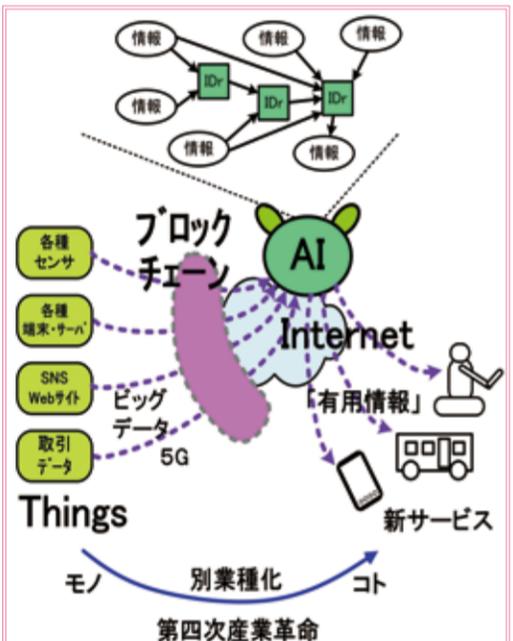
IOT・AI関連特許は、技術独占用の排他装置というよりも、有効なエコシステム形成用の交渉装置として重要になる。実際、コアの必須特許は押さえつつ用途特定発明の特許を無償提供したり、戦略的な契約の下で共有特許や利用発明の特許を展開したり等、様々な特許活用形態が模索されている。

では具体的に、IoT・AI関連特許は如何なる形をとるのか。第一に「特許が保護するのは技術よりも事業」との傾向が一段と強くなるであろう。これは、IoT・AI時代ではメーカーといえども新規事業として「有用情報」から構築したサービスを提供するケースが増えることによる。これに伴い特許発明の出力・効果が多くなる場合「有用情報」の提供となるのである。この「有用情報」としては、今後

ESG投資が拡大する中、社会(S)や環境(E)に貢献するものも多くなるであろう。

また、このような特許発明の構成は、ますます「技術」と「技術」の掛け合わせになると考えられる。すでに、クラウドや各種デバイス等、様々な高度「技術」がコモディティ化・低価格化し、単体の価値は暴落したともいえる。従って今後は、特定の「技術」から何ができるかに固執するよりも、誰でも採用可能な高度「技術」を掛け合わせ、目的とする「有用情報」を如何に生成するのが重要となるであろう。

さらに、IoT・AI特許発明の機能・作用を見ると、「情報」と「情報」の掛け合わせが進展していくのではないかと、ここで、掛け合わせる「情報」自体を斬新なものとし、



今までにないサービスを提供するケースも増えると考えられる。例えば時間売買サービスで注目されるタイムバンクの「時間発行」・「リワード」やオープンソース開発で有名なGitHubの「プルリクエスト」等は、これらの新規サービス事業を駆動させる重要な「情報」となっている。

では、以上の特徴を備えた特許発明の特許性は如何なる点に認められるか。この点勿論、構成の斬新さも大事とはなるが、それ以上に発明の出力・効果、即ち提供する新ビジネスにおける脱(反)常識の高さが重要となるのではないかと。脱(反)常識度の高いサービス例としては、上述した「タイムバンク」やフリマアプリの「メルカリ」が分かりやすい。要するに特許は、高度な「技術」よりも、斬新なビジネスを成立させる、常識に囚われない「アイデア・工夫」に対し認められる方向に進むであろう。

最後にこれまで述べたことから、IoT・AI関連特許の理想形?を思い描いてみる。技術の「先読み」が今後ますます重要となる中、「特許の理想形はSF小説」と言えるかもしれない。即ち特許明細書でも技術・アイデア・工夫をもって社会や環境の常識を覆すストーリーが展開されてもよいのではないかと。但しここでも特許クレームには、ピンポイントの発明や部分発明(部分意匠からの造語)を記載すべきである。架空の話となるがタイムマシンの発明において、明細書にはタイムトラベルサービスやその課金方法を記載しつつ、クレームでは時空特異点形成アンテナの発明を規定するイメージである。これにより特許権行使の際の複数主体や域外適用の問題にも対処しやすくなる。また一方で分割出願等を駆使し、記載したストーリーの中から発明を適宜抽出して、将来にわたり実施事業に即した特許を獲得していくことも可能となるのである。

○辰巳富彦弁理士 早原特許技術事務所パートナー弁理士 日本電気株式会社中央研究所にて機能材料・デバイスの研究開発に従事、その後パートナー弁理士として独立し、国内・外国出願業務、知財コンサルティング業務や、知財関連講演業務を行う。AIPPE(知的財産教育協会)認定知的財産アナリスト。

拒絶になった商標出願も 検索できるようになります

特許情報プラットフォームがさらに便利になりました

(独)工業所有権情報・研修館
知財情報部



特許情報プラットフォーム(PlatPat)は、特許、実用新案、意匠、商標の出願情報や審査情報等を無料で検索・照会できるインターネットサービスです(https://www.j-platpat.inpit.go.jp)。

このたび、5月7日より以下の主な点が改善されたサービス提供を開始しました。

- 一般的な改善によりJ-PlatPatユーザーの皆様は、より効率的かつ網羅的な特許、実用新案、意匠、商標の先行調査が可能となり、重複出願の防止、研究開発段階における重複投資の防止、より適切な海外出願戦略の策定が期待されます。
- 【主な改善点】
- これまで照会できなかった拒絶となった商標出願や、近年急増している中国特許文献の日本語
- メニューの統合や検索の初期画面で表示する項目を必要最低限にして、初めての方でも分かりやすい画面となりました。
- 検索結果として表示される関連情報にリンクを貼り内容の照会を簡単にするとともに、次の検索式作成へ情報連携する機能を新設し、検索結果を次の検索にスムーズに活かせるようになりました。
- トップページの簡易検索にて、各種番号やキーワードなどから、特許、実用新案、意匠、商標をまとめて検索する機能を新設し、産業財産権の種別を問わず同時検索ができるようになりました。



ハーグ編

興味はあるけど、機会がなかなか無い・・・そんな場所へ発明通信社社員が赴き、お土産話をお伝えいたします。初回となる今回は欧州と豊洲という異色の組み合わせです。いつか皆様の参考になれば幸いです。

3月17日から24日までオーストリアのウィーンとオランダのハーグに出張し、EPO（欧州特許庁）ウィーン支局で行われた「Patent Data Day」に出席およびEPOハーグ支局を訪問しました。今回は初のオランダということで、道中で体験した旅のレポートをさせていただきます！

低地と自転車の国
ハーグまでは、アムステルダムからスキポール空港から電車です。車窓から見える景色はやはり開拓による平坦な土地

オランダはレンブラント、フェルメール、ゴッホなどアムステルダム出身の画家を輩出しており、世

界的に有名な美術館が多いこと有名ですが、ここハーグにも有名なマウリッツハイス美術館があります。ここにはフェルメールの有名な「真珠の耳飾りの少女」があります。芸術に詳しくない人でも一度くらい雑誌などで見たことはありますよね。実際の絵はそれほど大きくはないのですが、驚くほどの存在感がこの絵にはあります。なんと書いてもフェルメール・ブルーといわれる青色の使い方（美しい）、そしてあどけない少女の見返り美人のようなポーズと表情に魅了されてしまいます。日本の美術館だと人を見に行っているのか絵を見に行っているのか分からなくなりますが、ヨーロッパの美術館はじっくりと見られるのがいいですね。ただし、広すぎて最後には疲れますけど笑

ハーグで一番見つめられる女性
オランダはレンブラント、フェルメール、ゴッホなどアムステルダム出身の画家を輩出しており、世

スケベニンゲンって、もちろん私のことじゃないですよ！笑れつきとした地名です！ハーグは海沿



ハーグのスケベニンゲン

スケベニンゲンって、もちろん私のことじゃないですよ！笑れつきとした地名です！ハーグは海沿



いに位置し、中心地から近い距離にスケベニンゲン海水浴場があります。正式な発音としては「スヘフェニンゲン」が近いようです。

サマータイムが始まる時期で夕方でも空は明るかったのですが、その日の気候は5度未満で非常に寒く、しかもものすごく霧でした！リゾート地でありながら人は少なく、名物の観覧車があるというので仕事が終わった夕方に行きましたが霧で隠れて何も見えませんでした。

東京駅のモデル
アムステルダム
中央駅

帰国する日に時間が少しあったので空港に行く前にアムステルダムを散策しました。アムステルダム中央駅は東京駅の丸の内駅舎のモデルとも言われている、レンガ造りの素敵な駅です。アムステルダムは規模の大きな、

様々な人種が行き交う街で意外と路地にゴミが多かった印象です。また、スターバックスやマクドナルド、H&Mがいたるところにありましたが、ヨーロッパの建物の中にあるとチェーン店までもが素敵に見えるから不思議ですよ。



豊洲市場編



豊洲市場を構成している水産卸売場棟・水産仲卸売場棟・青果棟はゆりかもめ市場前駅の改札から全て空中歩廊（ペデストリアンデッキ）というところで繋がっています。それぞれ自動立体低温倉庫や有名飲食店、屋上広場など見所があるのですが、今回は特別に許可をいただき水産卸売場棟で今年1月から開始された「マグロのせり見学」の見学デッキに潜入しました。



こちらは当選者だけが立ち入ることのできる特

別デッキからの見学となりますが、もちろんせりはお昼過ぎに到着したため、せり会場は綺麗に掃除された後でした。しかしその雰囲気は言うなれば「嵐の後の静けさ」！デッキに立つと同時に感じる寒さと匂いに驚かされました。突然大海原が目の前に広がったようで、少し怖くなってしまったほどです。



見学デッキは四方をガラスで囲まれています。その上部が開いており（動物園の屋外展示のように）音や匂い、臨場感がダイレクトに伝わります。せり会場と運搬コースを間近に見られるようになっていて、有名な「ターレ」が走っている様子も確認できました。（この記事を書いている途中に、市場関係者がターレ運転中の事故で亡くなったというニュースを目にしました。築地では観光客とターレが衝突することも多かったです。事故



発生件数を減らすためにも見学者通路（デッキが必要なのだと感じています。）

柱の「大物冷凍」「大物生鮮」という文字、止まっているフォークリフト・・・ここにマグロが並んでいたらさぞ圧巻だろうとキョロキョロしていると隅に生マグロを発見！大きさはそれほどではありませんが、小さな恐竜のようで、こんなものが海を泳いでいるのかと圧倒されると共に「・・・食べたいなあ」と思ってしまった。マグロのせり見学は1日120名限定でインターネット・電話にて申し込みが可能です。一般の見学者通路には人数制限は無く予約も必要ありませんが、事前に休開市日の確認をお忘れなく！市場の周りには公園になっていて東京タワーやレインボーブリッジがよく見えますし、豊洲エリアは東京オリンピックで多くの種目の会場となりますので建設ラッシュを観察も面白いかと思います。築地から83年ぶりに移転した豊洲市場、ぜひ一度訪れてみてはいかがでしょうか？